

か宇宙の玄関口!

宇宙に夢を託すのは人間誰しもか  
持つロマンの一つ。しかし、  
そのロマンを追求した結果なんと  
「UFO大使館」なる施設を建てる  
ことになったしまった。これは  
「UFO大使館」とはいかなるもの  
なのかその建設計画の全貌に迫る!!

週刊誌「話のチヤネ」

# 宇宙大使館の全貌

民心だんろんが「UFO」

宇宙。それは人類に残さ  
れた最後の開拓地である。  
なんていうのは有名なSF  
ドラマの一節だけど、  
開拓地かどうかは別と  
してまだ見ぬ未知の世  
界ということは確  
かな話。

数々の謎が未だ  
説明されない  
ままというこ  
の宇宙でも、  
最大かつ最も

ポピュラーな謎として存在する  
のが宇宙人は果たして本当にい  
るのかということだろう。

テレビや雑誌では幾度となく  
特集番組や記事が生まれ、世の  
中には何人もの人がその存在を  
確認しているにも関わらず、公  
式に発表されたことは世界中の  
どの国でも過去に認められたこ  
とはないのだ。

一般的にはいるんじゃない  
か、と思われているが、それは  
あくまで希望的観測のことであ  
り、本当のところはいるんだか  
いないんだか、誰にもわかんない  
のである。

そんな、いるのかいないのか  
わからない宇宙人のために、な  
んと立派な大使館を造ってしま  
おうという、なんとも凄惨な計画  
が持ち上がったという。とはい

UFO大使館建設用地は、現在手つかずの状態。



話題  
発掘

え、宇宙人の大使館なる施設っ  
ていったい何? ってことで早  
速その詳細を探ってみることに  
しました。

この大使館、その名をスバリ  
「UFO大使館」という。まだ  
建設する、という事項が決まっ  
ただけで公式にはほとんど白紙  
状態という。

しかし、建設予定地まで決ま  
っているというのに、なにもか

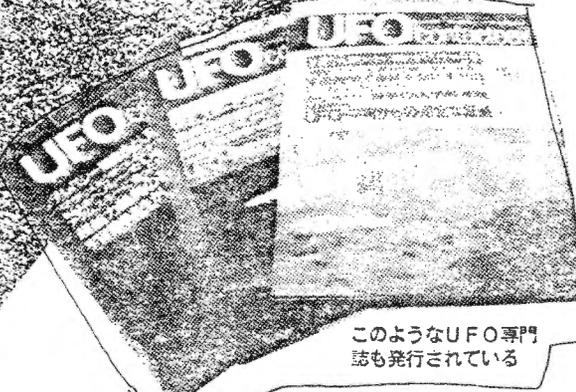
香川県UFO愛好会々々長  
向井裕さん

2月12日号掲載の記事より

もまだ未定なんていることがあろうはすがない。そんなワケでここは一つ、この大使館の真相を探らうと、建設の中心グループがある四国の高松へと飛んでみることにした。

高松といえばなんといっても有名なのは、ツルツルシコシコの讃岐うどん。ところが地元の人でも知らないような著名物が、何を隠そう、UFOらしいのだ。

その高松に存在するグループというのが「香川県UFO愛好会」なる組織。今回のUFO大使館もこの香川UFO愛好会が中心となって計画を運んでいる。



このようなUFO専門誌も発行されている

ものらしい。

そこで紹介してもらったのがこの代表者でもある向井裕さん(六八)。じつはこの向井さん、日本の、いや世界のUFO愛好家ならその名を知らぬ者はないといわれるほどの有名人で、UFOの種類の名前にまでなっている研究者、アダムスキー氏に会っている唯一の日本人でもあるのだ。

このたび造られることになったUFO大使館も、この向井さんがとりあえず陣頭指揮を執っているという。向井さんに聞けば、大使館の内容がおぼろげな

### 人生を変えたUFO目撃体験

そもそも、向井さんがUFOに興味を持ち出したのは約三十六年ほど前の事。たまたま見つけたテレビ番組でUFOの特集をしていたのだが、そこでゲストの語った一言が、向井さんの人生を大きく変えることになったのだ。

そのテレビ番組でUFOの写真を紹介しておったのですが、それによるとこの手の写真の八割が偽物だ、と言っていたんです。そこでちょっと待てと。それ以後の二割は本物というこ

がら見えてくるかもしれない。

そこで我々はこの向井さんがなぜここまでUFOに

のめり込むことになったのか、向井さんのUFO体験や香川県UFO愛好会設立に至った経緯など、まずその辺りのことから聞いていくことにしてみた。

とになるじゃないですか(笑)「この話を聞いた向井さん。い

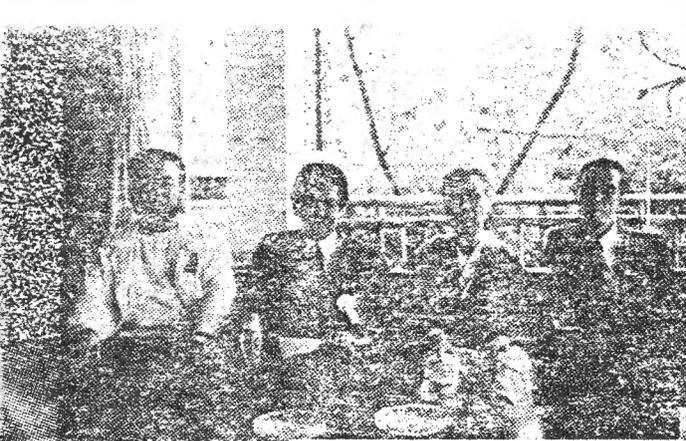
てもたってもいられなくなり、直接そのゲストの所へ乗り込んだのだが、その人こそ誰であろう、日本でアダムスキーの著書を翻訳したという、久保田八郎氏だったのだ。

そうしてアダムスキーの存在を初めて知ったのだが、そうなるに黙っているわけにはいかない。今度はアダムスキーに会うために海を渡ってしまっただけである。



「その時には全然気がつかなかったんですけどね。私が面会した何日か後に、アダムスキーが亡くなってしまわれたんです。後で調べたらどうも私がアダムスキーと会った唯一の日本人らしいんですね。ふあっはっは」

こうして帰国後、すでにあつたUFO協会に入会した向井さんだったが、意見の相違からその協会を脱会。独自にUFOの研究を始めることを決心したのと同時に、香川県UFO愛好会



を設立したのだという。  
 そんな向井さんが初めてUFOと遭遇したのはちょうどこの頃のこと。どんよりとした低い雲が垂れこめた小雨のソボ降る日のことだったとか。  
 「今はなくなっちゃいました。今、ちょうどその頃、私の家から百軒ほどいった所に空地があったんです。で、なんとかそこにUFOを着陸させる事が出来ないかと、三重円を書いた向井さん(右から2人目)の横が、UFOにさらわれた経験があるという高橋ミノルさん」

しとったんですよ。

それでもなかなかやってこない日が続いておったんですが、ある日仲間の何人かと花でも植えようかと思ってみたら、直径一メートルのUFOが着陸しておるんです。いや、あの時は驚くというより感激してしまいましたな」

この時向井さんが見たUFO、形は目玉焼きの中央をもう少し膨らませたような感じで、ゆらゆらと揺れながらその三重円のまん中に着陸していた。存在は信じていたものの、まさか自分のうちのすぐそばに降りてくるとは思わなかった向井さん。あまりの感激に、まずはぼんやりと眺めているだけだったという。

「そのうちにこれはじっくりと観察しなきゃいけないということに気がつきました。そこで周りのものが止めるのも無視して、間近でつぶさに観察することにしたんです」

UFOにしてはかなり小ぶりなその物体、銀色の何か金属で

出来ているようだったが、鑄物のように表面がざらついているので、所々に錆が浮いているほどであったという。

本当であれば写真なりビデオなりを撮るべき所だったのだが、この時の向井さんはそんな事も忘れ、ひたすら観察する状態。心いくまで調べた後は、なんとそのまま家に帰ってしまったというから、なんともはやとあった感じだ。

「その時はちょっと目を離した隙に、どこかへ行ってしまうんじゃないかと思ってましたからね。今考えると一緒にいた誰かに、カメラを取りにいかせればよかったんですが(笑)」

次の日その空地に行ってみるとすでにUFOの姿はなく、着陸した跡の場所が何か非常に重いもので押されたかのようにへこんでいたという。

「かなり重量がないとあれだけのヘコミはできませんよ。私がおもうにそれは記録用の小型円盤だったんじゃないですかね」  
 一瞬誰かのいたずらじゃない

か? とも考えたそうだが、地面がこれだけへこむのを運ぶには車か何かがあれば無理な話。それにしても周囲に轍もなにもなかったのだ。

こうしてますますUFOにのめり込んでいくことになったのだが、その情熱たるや並ではない。そのころアメリカではち

ょうど情報公開法が制定され、それまでトップシークレットだったUFO情報が一般民間人も閲覧できるようになったばかり。向井さんはこの情報を入手しよう、なんとアメリカのCIAにまで問い合わせたというのだ。

「CIAといえども、要は一つのお役所ですから。資料請求そのものは意外と簡単でした。ただ送ってやるからコピー料金を払うように、と言われたのには笑いましたね」

と、さしもの世界トップの諜報機関も、向井さんにかかれれば、町の役場と同じレベル。

香川県に住むこの高橋さん。実はUFOにさらわれ、なんとセックスまでさせられてしまったという、なんとも凄惨な体験の持ち主だったのだ。

「肴りゃあ、びっくりしましたよ。おまけにうちのすぐ近くとまで飛んできたからな。噂を聞いてすぐに飛んでいったのを覚えてますよ」

この高橋さん、じつはあの矢追純一ディレクター制作のUFO特番にも大々的に取り上げられた有名人。自宅からすぐそばという事もあり、この高橋さんが香川県UFO同好会の頼もしい一員となったのはいうまでもない。

こうして少しずつではあるが確実に大きくなってきたUFO愛好会。最近では全国大会を主催するまでの成長ぶりなのだ

## 純粋な子供の心を持つ地球人のために造る

こうして次々と資料を集めては研究を繰り返していた向井さん

んの前に現われたのが、高橋ミノルなる人物。向井さんと同じ

が、実はUFO大使館の話も、この大会を通じて出てきたものなんだとか。

この大使館の建設予定地を快く提供してくれたのは、香川県坂出市に住む造園会社社長の森田拓哉さん(四六)。場所は高松と坂出の間にまたがる、瀬戸内の景勝地として名を馳せている五色台という山の頂上近くの土地。その広さは二万平方メートル、坪数に換算するとなんと約六千坪というから、そのスケールたるや想像を絶するほどだ。

実はこの五色台、近辺でUFOの目撃情報が多たび報告されている。おまけにその筋の専門家の話によれば、この地区の近くには白峰御陵といわれる天皇家の墓があり、そこに伝わる「金色の鳥」やら「火柱」の伝説こそ、この地区に昔からUFOが頻繁に飛来していた証拠、なんて話もあるほどなのだ。

まさしくUFO大使館を造るにふさわしい土地、とまあこういうことになるのだが、総責任者といふべき向井さんはいったてのんきなもの。

「土地を貸してくれるというもんだから、それならばなにか造ろうと、まあこういうわけです。

どうせ造るのであれば、世界的にも類のない、UFO大使館を造れば面白いんじゃないかということですね」

現段階ではこの建設予定地は草ムラに覆われたままのただの荒地地。計画としてはいくつかの施設を造ろうかという話はでているのだが、まだまだそれを明らかにするべきではないというのがこの向井さんの考えだ。

「確かにいくつかのこんな施設を造ろうかという話は持ち上がっていますよ。だけでもなんかどこかで聞いたようなものばかり。それじゃあ、面白味に欠けてどういっておるんです」

ちなみにこれまでに発表された設立施設の数をあげていくと、異星人用のための施設とし



今回建設にあたっての賛同者の人々。

て三重円を描いたUFO用離着陸施設をはじめ、迎賓館や宿泊施設。そして地球人のためにはUFOの情報センターや図書館、そして研究所などを建てていくつもりらしい。

しかしこの計画には向井さんほどどちらかというと反対の意を表明しているんだとか。

「宇宙人用の施設といっても、それはあくまで我々地球人が勝手に想像して造っているだけに過ぎないのです。造ったからといって、宇宙人が喜んでくれるかどうかというのはわからないんです。そんなわからないものにお金をかけてもしょうがないじゃないですか」

向井さんの話によれば、そういった宇宙人のための施設は宇宙人が実際に地球に頻繁にやってくるようになり、宇宙人の好みがわかってから造っても遅くないという。それよりも宇宙人が気軽に立ち寄れる環境を作り出す事の方がはるかに重要な事なんだそうだ。

「人間は年をとると、いろいろなしがらみとかができて純粹で

はなくなってしまうのですな。そういう人たちが数多く住んでいる社会には、宇宙人は絶対といっているほどやっつてはけません。だからUFO大使館は純粋な子供の心を持ち続けることができる、そんな人間を育てる施設にしていきたいのです」

現在施設のアイデアを広く一般に募っているのだが、この向井さんの考え方によるためか、子供の意見を積極的に採り入れようという動きがおきている。

「今の状態をご覧なさい。UFOが来たという航空自衛隊がスクランブル発進をかけてUFOを撃ち落とそうとする。そんな考えを持っているところに姿を現せば、攻撃されるに決まっているじゃないですか。そんな所にノコノコと現れる者はいません」

この大使館ではそういった考えの人ではなく、UFOや宇宙人を友達としてとらえる心の持ち主のためのものにしたい。そういう心を持った純粋な人が何人も育っていけば、宇宙人は必ず来てくれると考えているのです」

冗談半分でつくる施設かと思えば、マジもマジというこの大使館。さてどんなものが出来上がりますやら……。

去る一月の東京月例会で、余田会長が「この週刊誌から取材を受けてね」と言われた。その記事がこれだと思われます。参考までには、横井支部、奥津邦男